

報告事項サ

令和7年度鳥取県立図書館特別資料展「戦後80年 県民の継承の
いとなみ ― 戦争体験の想起とこれからの伝承 ―」について

令和7年度鳥取県立図書館特別資料展「戦後80年 県民の継承のいとなみ ― 戦争体験の想起とこれからの伝承 ―」の開催について、別紙のとおり報告します。

令和7年8月4日

鳥取県教育委員会教育長 足 羽 英 樹

令和7年度鳥取県立図書館特別資料展
「戦後80年 県民の継承のいとなみ ―戦争体験の想起とこれからの伝承―」について

令和7年8月4日
図 書 館

今年度は戦後80年を迎えることから、戦争の記憶を次世代に伝えることをテーマとした特別資料展「戦後80年 県民の継承のいとなみ―戦争体験の想起とこれからの伝承―」を開催します。

- 1 会期
令和7年8月13日(水)から9月23日(火祝)まで
休館日 8月14日(木)、8月31日(日)、9月11日(木)
開館時間【火～金】午前9時から午後7時まで【土・日・月・祝日】午前9時から午後5時まで
- 2 会場
鳥取県立図書館2階 特別資料展示室
- 3 主催
鳥取県立図書館

<概要>

1 趣旨

戦後80年を迎え、戦争体験者の高齢化が進む今、戦争を語り継いでいくことの重要性が改めて問われています。

本資料展では、新聞資料や体験談等の文集・記録をはじめとした地域資料等から体験者の記憶をたどり、戦争の記憶とこれからの伝承活動の営みを発信します。

2 展示内容

以下の4つの構成から、日本が関わった戦争について理解を深めるとともに、戦争を体験していない世代が取り組む戦争体験の伝承活動を紹介し、これからの伝承について考える機会となる内容としています。

- (1)「戦争」とはなんだろう？
- (2) 県民が体験した戦争 ―体験者の数だけ異なる戦争の姿―
- (3) これまでの継承のいとなみ ―記録化と物語―
- (4) これからの伝承 ―世代を超えた記憶のつながり―

<主な展示品>

- ・ 水木しげる氏の直筆原稿（県立図書館蔵）
「中央公論9月号」（昭和48年 中央公論社発行）に掲載されている「娘よ、あれがラバウルの灯（ともしび）だ」の直筆原稿。校正の過程が見られる貴重な資料。（購入した資料）
- ・ 紙芝居「大山口列車空襲」（2013年制作／大山町立図書館蔵）
2013年に大山町立中山小学校6年生が先生と制作。
体験者の過酷な体験を学び、子どもたちが紙芝居として制作したものであり、大山口列車空襲を後世に伝える貴重な取組。
- ・ 日本赤十字社鳥取県支部の救護班に関する資料（日本赤十字社鳥取県支部蔵）
原爆投下直後に鳥取県から救護班として広島市に入って行った看護活動を当時の写真や文書等の資料により紹介。
- ・ 鳥取県の学徒勤労動員に関する資料
学徒勤労動員に出発する際に撮影した写真（鳥取敬愛高等学校蔵）や、鳥取敬愛高等学校社会部がまとめた学徒動員日記の研究等を紹介。
- ・ 伝承絵画「原爆の絵」（広島平和記念資料館蔵）
伝承活動のモデル事例として広島市立基町（もとまち）高等学校の生徒と証言者等が共同で被爆者の記憶に残る光景を「原爆の絵」として制作する取組を絵画（複製）により紹介。

<その他>

本資料展は、6月議会で知事が答弁した「8月13日をスタートに戦後80年の節目にもう一度、平和の尊さを考える取組」のひとつであり、併せて、当館1階閲覧室でも関連図書等の展示を行います。

令和7年度

鳥取県立図書館特別資料展

入場
無料

戦後80年 県民の継承のいとなみ

—戦争体験の想起とこれからの伝承—

戦前教科書に載る戦車と戦闘機の挿画（『カズノホン1』昭和19年刊）鳥取県立図書館蔵

戦後80年を迎え、鳥取県でも戦争体験者の高齢化が進む今、戦争を語り継いでいくことの重要性が改めて問われています。

本展では、新聞資料や体験談等の文集・記録をはじめとした地域資料等から体験者の記憶をたどり、戦争の記憶とこれからの伝承活動のヒントとなる取組を紹介します。

会期

令和7年

8月13日（水）～9月23日（火）

休館日／8月14日（木）、8月31日（日）、9月11日（木）

開館時間／【火～金】午前9時～午後7時 【土・日・月・祝日】午前9時～午後5時

会場

鳥取県立図書館 2階 特別資料展示室



詳細はこちら>>



お問合せ先
鳥取県立図書館

〒680-0017 鳥取市尚徳町 101 TEL 0857-26-8155 FAX 0857-22-2996
電子メール toshokan@pref.tottori.lg.jp



戦後80年 県民の継承のいとなみ

—戦争体験の想起とこれからの伝承—

主な展示内容

「戦争」とはなんだろう？

わたしたちが戦後80年を語るとき、戦争の認識は個人差があることに気づきます。戦争について解説した資料や戦争当時に発行された資料などから、戦争について解説します。



『現地報告』(51～55号、昭和16年12月～昭和17年4月)
鳥取県立図書館蔵



『日本海新聞』(昭和16年12月9日付) 鳥取県立図書館蔵

県民が体験した戦争 —体験者の数だけ異なる戦争の姿—

鳥取県出身の水木しげるさんはラバウル戦線の体験を書き記し、また、勤労奉仕に従事した生徒の動員の实態は学校記念誌などから知ることができます。このように、鳥取県の人々の戦争体験を文学作品や文集などに残る記録からたどります。



「第六九六救護班関係綴」
日本赤十字社鳥取県支部蔵



救護班結団式(写真) 日本赤十字社鳥取県支部蔵

これまでの継承のいとなみ —記録化と物語—

人々はそれぞれの戦争体験をどのように残し、伝えようとしてきたのでしょうか。手記や語り部活動、新聞・テレビ報道、慰霊祭などの取組を振り返ります。

これからの伝承 —世代を超えた記憶のつながり—

戦争の記憶を引き継ぎ、次世代に伝えるには、体験者の生の声や思いに触れ、体験者の記憶に思いを寄せ、その意味を考え続けることが必要です。

広島の実験者と非体験者の関わりから生まれた伝承絵画「原爆の絵」の活動や、鳥取県内の児童等が制作した大山口列車空襲の紙芝居など、未来に向けた伝承活動を紹介します。

戦争体験者の手記集
鳥取県立図書館蔵



『大山口列車空襲』の紙芝居
(大山町立中山小学校制作 2013)
大山町立図書館蔵